

# 1. 評価結果概要表

作成日 2008年3月6日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1270500687
法人名	株式会社日本医療事務センター
事業所名	グループホームきらめいと土気
所在地	〒267-0061 千葉県千葉市緑区土気町446-6 (電話) 043-205-5180

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成20年3月6日	評価確定日	平成20年4月14日

【情報提供票より】(20年2月12日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	13人, 非常勤 4人, 常勤換算 7.9人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	7万~7万5千円	その他	食費42,000,水道光熱費25,000,理美容,おむつ代等	
敷金	無		有りの場合償却の有無	有(期間:3年)
保証金の有無(入居一時金含む)	有(200,000円)			
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,400 円			

### (4) 利用者の概要(2月12日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 79 歳	最低	68 歳	最高	98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団良志会リハビリテーションクリニック
---------	-------------------------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

株式会社日本医療事務センターの福祉事業部が展開しているグループホーム「きらめいと土気」は平屋の2ユニットのホームで、周りにはまだ多くの自然が残っている。ホーム独自の理念である「心」はホーム全体に浸透し、入居者も家族の一員という職員の想いがケアに表れ、それが入居者や家族との信頼関係に表れている。また、隣接している医療法人との契約で、24時間の医療連携体制が構築され、介護方針の共有や、看取りの支援が行われている。現在、終末期ケアマニュアルを作成中であり、今後益々地域に根差したホームとして期待される。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点であった、緊急時対応や感染症対策については、1月より介護支援専門員が研修を担当し、全職員が参加できるよう勉強会を2回に分け、継続して行うこととしている。また、職員のレベルに合った研修は、日々の業務のなかで取り組んでいくことなので、今後に期待したい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は各ユニットごとに職員に話を聞くなどし、最終的に施設長、介護支援専門員、主任でまとめた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	今までに2回の運営推進会議を開催し、第1回目の参加者は家族と職員代表で行われた。2回目は、民生委員、町内会長、家族、本社社員、ホーム代表者で行われ、内容は入居状況、行事、外部評価結果の報告を行った。しかし、行政からの参加が得られていないため、今後も根気よく声かけを行うことが望まれる。地域包括支援センターの主任ケアマネジャーへの声かけも促される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関に意見箱の設置はあるが、現時点での苦情は確認されていない。3~4ヶ月に一度家族会の開催もあり、そこでも機会を作っている。また、面会時での話し合いで出された意見などは日誌に記載し、職員間で話し合うとともに、介護計画や運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し班長も受けているが、次年度は地域の組織変更のため加入が困難になる。しかし、職員、入居者に地元出身者が多いこともあり、地域活動情報の入手は可能で、ゴミゼロ運動や老人会の催し物への参加は今後も入居者と共に継続していく。また、昨年までは近隣の幼稚園、小学校との交流もあったが、ここ暫く滞っている状態にある。今後、再開の予定で話し合いを行っている。

## 2. 評価結果 ( 詳細 )

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	思いやる心、優しく見つめる心、人は全て心であるという介護方針のもとにホーム独自の理念を「心」と決め、額に入れ玄関に掲示している。できることなら、掲示場所を工夫することで来訪者にもホームの方針が一目で理解されるものと思われる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については定期的なミーティング時や、フロアで入居者との話しの中で折に触れ語られている。全職員は理念を共有し、それを念頭にケアの向上に取り組んでいる。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、現在は班長も務めている。地域活動のゴミゼロ運動や老人会で行っている催し物にも出かけている。以前交流のあった幼稚園、小学校との関わりが停滞中であり、今後は再開の方針が話し合われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果を額に入れ、情報の開示を行っている。改善点については職員会議で話し合われ、改善に向けての取り組みがされた。法人専用の改善計画シートもあることなので、今後は記録で残すことも必要と思われる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今までに2回の運営推進会議が開催されたが、参加者に行政関係の出席がなかなか得られないのがホームとしては頭の痛いところである。会議の内容は外部評価結果、入居状況、行事報告、意見要望についての話し合いが行われた。次回は4月に予定している。		今後も行政への声かけは継続して欲しいことと、地域包括支援センターへの参加を促す働きかけなども行って欲しい。次回開催時は今回の自己評価についての報告も合わせて行うことで、更に良いサービスの向上が期待されると思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役所に直接行くことは少ないが、解らないことに関しては、緊急を要することが多いため、担当者と電話で済ませることが多い。しかし、グループホーム連絡会の懇親会などで直接話し合う機会を作っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の様子は面会時や電話等で定期的話しをしている。金銭出納帳は月に一度、請求書送付の際に一緒に報告し、職員の異動についてはホーム便りにのせ報告する。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を置き家族からの意見、苦情を表す工夫はされている。また、3～4ヶ月に一度家族会を開催し、不満などを言う機会を作っている。家族から出た些細な言葉でも日誌に記載し、職員間で話し合いを行い、介護計画や運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員はユニット固定型でサービスを行っているが、管理者は両方のユニットの入居者を理解して欲しいと望んでいる。母社のバックアップが大きい利点を活かし、職員体制にも余裕が伺え、職員の定着率も高い。		
okonatteiru .					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護支援専門員を研修担当にあて、全職員が参加できるように、2回に分けユニット毎で定期的に勉強会を開催している。段階に応じた育成については、日々の業務の中で2人体制で教育を行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉市認知症高齢者グループホーム連絡会に加入し、同業者と接する機会を作り、加入者同士の交流は行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>以前は面接のみで入所のケースもあったが、最近は体験入所の体制があり、徐々に慣れてからの入居となる方が多い。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>地元入居者が多いこともあり、地域の風習や戦争の話し、女性入居者からは野菜の切り方や、味付けなどを教わることがあり、男性職員などは食事作りに役立っている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>家族の来訪が多く、施設長が家族との会話の機会も多く、会話の中で本人の意向を把握している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>生活サポートプランのアセスメントシート、センター方式のバックグラウンド暮らしの情報シート、基本情報シートを使用して一人1人の意向を把握し主治医の見解を整理し、管理者、主任、計画作成担当者がカンファレンスを行い、介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎日生活記録を記録し、連絡ノートを活用して情報を共有し、変化がある場合は即計画の見直しを行なっている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が病院受診同行が困難時は、職員が同行している。帰宅の場合の介護タクシーの手配や、冠婚葬祭時に職員が付き添うなどの支援を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	要望に沿った通院支援を行い、通院が難しい場合は往診を受けている。また週2回訪問看護ステーションと連携をとり健康管理や医療面での支援を受けている。月に1度、法人の精神科医の診断を受けている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、終末期を何処で送り、看取るかを家族と話し合う。ホームを希望された場合は、家族の思いを優先に、主治医と相談し、医療、介護の方針を職員全員で共有し、入居者本人の不安、恐怖を軽減するように努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居時、家族に入居者の名前の呼び方を確認し、プライドを傷つけない声かけを心がけている。記録等は鍵のかかる保管場所に保管され、プライバシーの保護は徹底されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースに合わせ、希望を聞き、犬の散歩や買い物に出かけたりなど、無理なくゆったり過ごせる支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりの状態に応じ、ぬか味噌づくりの得意な方は漬物を漬けたり、食事の準備や後片付けをしてもらっている。出来ない方でも、自分のテーブルの前や手の届く範囲は拭くことで食事作りに参加して頂いている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者個々に職員が希望を聞き、好みの時間帯にゆったりと入浴を楽しんでもらえるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの生活歴を活かし、生活に張り合いや喜びが持てるよう配慮している。カラオケ、ドライブ、習い事など、楽しみごとはさまざまである。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の体調に合わせ、ホームの庭を散歩したり、地域の住宅街や神社を散策するなど、ホーム内に閉じこもらないよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中自由に出入りできるように、玄関の鍵はかけていない。人の出入りはセンサーのチャイムで感知できるようになっている。徘徊、帰宅願望者は、職員が連携して見守りしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を受けて避難訓練を行なっている。近隣住民との連携体制作りは、地域性的な問題もあり、難しい状況である。		近隣住民との連携が難しい場合は、隣接の診療所と災害協力体制を作るなどの工夫が求められる。夜間想定避難訓練も必要と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの良い献立が作成されている。週1回、フリーメニューの日があり、入居者はそれぞれ好きなお弁当、お刺身等を食べている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	屋根に採光の窓が数か所あり、ホーム内が明るく暖かな造りになっている。廊下もゆったり通れる広さがとられており、畳でできたベンチなども置かれている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の使い慣れた家具を持ち込んだり、和室を希望される方には、畳を敷くなどの工夫がされている。室温はエアコンで自由に調整できる。		